

科目「情報演習」シラバス

1. 教科到達目標

情報の科学的な理解を深めつつ、情報活用の実践力を身につけ、情報社会に積極的に参画する態度や好奇心を養う。	世界で起きている情報通信技術の問題に目を向け、それに対する自分の考えを表現できる能力を養う。	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに、効果的に問題解決やコミュニケーションを行う能力を養う。
--	--	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

2. 科目の到達目標と評価の観点

(科目) 情報演習	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2 単位	高 2 学年 (文系) 第 3 学年 (文理)	教科書：使用せず 問題集：情報 I 徹底演習 数研出版
学習の到達目標	共通テスト「情報 I」で、8 割をとれる実力をつける。		
評価の観点	<知識・技能> 選択問題でミスなく正答できている。		
	<思考力・判断力・表現力> 必要に応じて P C やアプリケーションを使いこなすことができる。 教科書に出てくる用語の意味を、文章で説明できる。		
	<主体性・多様性・協働性> 課題を期限内かつ手を抜かずに提出することができる。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出，未実施・・・0%

3. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 ～ 2 月	全範囲	「情報Ⅰ」で学習したことを整理する。 練習問題を通し、共通テストに通用する力を無理なく身につけさせる。	①日報を通し学習内容をまとめ、その日のうちに復習する。 ②実習課題に自主的に取り組む。 ③考査前に、演習の時間をとる。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
＜知識・技能＞ 教科書で扱った言葉や事象を理解し、問題集が解けるようになった。			授業内テスト（70%）
＜思考力・判断力・表現力＞ PCを用いて有効な問題解決手段を選択できるようになった。 教科書で扱った言葉や事象を、文章を使って説明できるようになった。			授業の様子や提出物出来(20%)
＜主体性・多様性・協働性＞ 宿題を欠かさずこなす。不明点を解決するための努力をしている。どのグループに所属しても協働作業を積極的にこなす。			課題提出状況や、授業内・休み時間の様子で判断。(10%)

【提出物状況の評価基準】

- A：期限を守り、答えの丸写しではなく自分の考えで8割以上解答している。
- B：解答はしっかりとできているが期限を守れなかった。
もしくは期限を守れたが空欄が2割以上ある。
- C：未提出